平成２７年　１１月　10 日

平成２７年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 鬼怒 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２７年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成27年4月21日（火）

3　調査対象

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語Ａ　１８９　人　　国語Ｂ　１８９　人

②　数学Ａ　１９０　人　　数学Ｂ　１９０　人

③　理科　１９０　人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

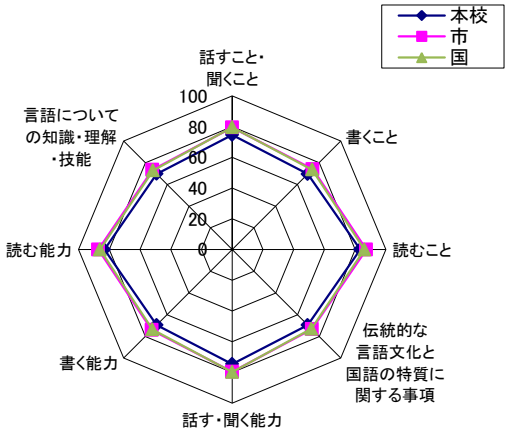
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立鬼怒中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

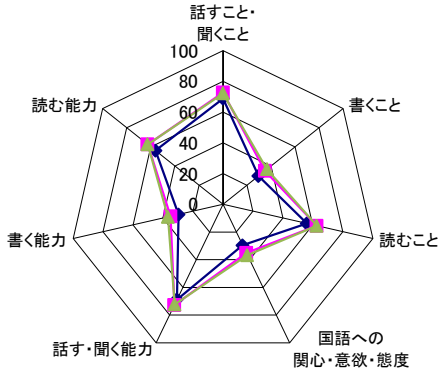
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.6	79.5	79.7
	書くこと	69.5	74.1	73.6
	読むこと	83.3	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.6	79.5	79.7
	書く能力	69.5	74.1	73.6
	読む能力	83.3	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	69.6	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.8	72.8	72.2
	書くこと	29.6	35.0	36.7
	読むこと	56.1	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	29.6	35.0	36.7
	話す・聞く能力	68.8	72.8	72.2
	書く能力	29.6	35.0	36.7
	読む能力	56.1	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」という項目では県平均・全国平均より肯定的回答が高い。
●「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」という点では、県平均・全国平均より劣っている。授業で話したり聞いたりという活動の中で、自分の意見を効果的に伝えるために工夫する場面を多く設定して、相手にうまく話を伝えられるようにしていきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

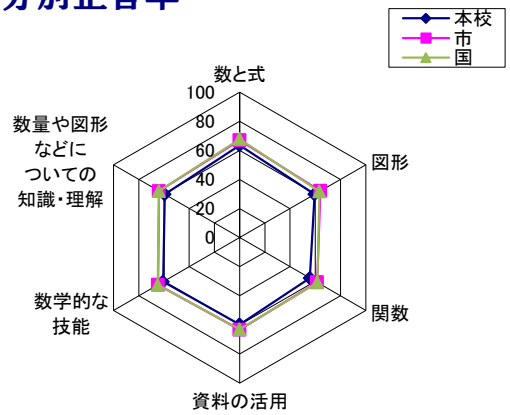
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「効果的な資料を作成し、活用して話す」という点では正答率が県平均・全国平均にかなり近い。 ●「聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す」という設問では誤答率・無回答率が高い。	・資料を活用しながら、相手に分かりやすい語句を選んで話す授業を多く設け、自己評価や相互評価を取り入れることで適切な語句を用いた話ができるように改善させたい。
書くこと	●全般的に「書くこと」に関する設問の正答率が低い。特に「伝えたい事実を明確に書く」「伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える」「資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く」「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」は県平均・全国平均よりも5ポイント以上低い。	・伝えたいことを相手に分かりやすく伝える文章を書けるように、適切な言葉を選んだり構成を工夫したり効果的な資料を作成したりして書く授業を実施していきたい。
読むこと	○「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」「文章から適切な情報を得て、考えをまとめる」「表現の特徴を捉える」という点では、県平均・全国平均にかなり近い。 ●「表現の工夫について自分の考えをもつ」の正答率は、県平均・全国平均より5ポイント以上低い。	・文学的文章の読み取りにおいて、物語の展開や表現の巧みさに注目させることで表現の工夫について気づかせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「手紙の書き方を理解して書く」「代表的な古典の作品に関心を持つ」「表現の技法について理解する」の設問の正解率は県平均・全国平均より高い。 ●漢字の書き、文法に関する問題の正答率は、県平均・全国平均より5ポイント以上低い。	・漢字については、漢字テストを継続的に行うことで書く力を身につけさせるようにしたい。 ・文法では、問題演習を充分に行ったり読み取りの授業においても文法を取り上げたりして文法を理解する力を高めていきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

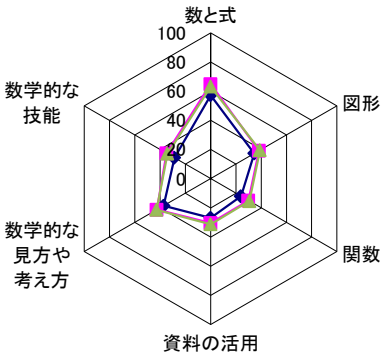
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.4	67.0	67.7
	図形	59.5	64.1	63.4
	関数	55.7	61.4	61.7
	資料の活用	59.7	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	60.7	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	59.4	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	57.2	64.8	63.2
	図形	34.6	38.3	39.0
	関数	24.0	29.9	30.7
	資料の活用	26.8	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	37.2	42.6	42.8
	数学的な技能	28.7	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○数学ができるようになりたいと答えている生徒の割合が、全国や都道府県よりも高い。
○数学の授業で、もっと簡単に解く方法を考える生徒が、全国よりも7．1ポイント高い。
●数学が好きな生徒の割合は、全国や都道府県よりも低い。

★指導の工夫と改善

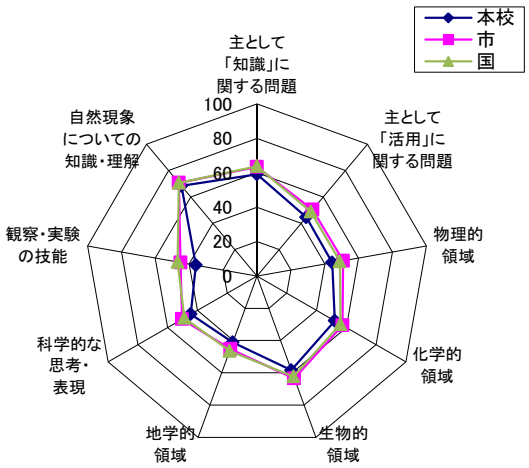
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○等しい比を選ぶ問題では、正答率が、94．7%となっており、栃木県平均と全国平均よりも1ポイント以上上回っている。 ●正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結びつける問題では、正答率が、全国平均よりも5．4%下回っている。	数と式の分野において、基本的な計算を繰り返すことが重要である。計算の仕方を学び、ケアレスミスを減らすことをやっていく。また、数量の関係を文字式に表すことが苦手である。デジタル教材などを生かして、視覚的に訴えていく。
図形	○平行移動した図形をかく問題では、正答率が55．8%となっており、栃木県平均と全国平均よりも上回っている。 ●与えられた投影図から空間図形を読み取る問題では、正答率が76．8%となっており、全国平均に比べて7．0ポイント低くなっている。	図形の分野の中でも、特に空間図形の分野が苦手な生徒が多い。これも、数と式の分野と同じようにデジタル教材を活用したり、立体模型を活用したりと視覚的に訴えていく。
関数	○時間と道のりの関係を表すグラフで、グラフの傾きが速さを表す問題では、栃木県と全国平均を下回っているが、無回答率が1．1%なことから、どうにかして答えようとしている意志が見える。 ●二元一次方程式の解を座標とする点の集合の問題では、正答率が32．6%となっており、全国平均よりも5．3ポイント低くなっている。	関数の分野においては、表と式、グラフがすべてつながっているという感覚がない生徒が多い。問題を解くために、表と式、グラフを利用し、様々な解き方を提示することで、解くための手段を生徒にできるだけ多く学ばせる。
資料の活用	○与えられた資料から中央値を求める問題では、正答率が45．8%となっており、栃木県平均と全国平均とほぼ同程度となっている。 ●与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明する問題では、正答率が20．5%となっており、全国平均よりも10．3ポイント低くなっている。	資料の活用の分野においては、確率の分野が苦手な生徒が多い。樹形図をかくことや表を作らせることで解き方の基礎から学ばせたい。また、平均値・中央値・最頻値を軽視している生徒が多い。それぞれの言葉の意味を理解させ、再度求め方を確認していく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第３学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	59.1	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	44.5	50.3	48.8
分野等	物理的領域	44.4	50.9	48.9
	化学的領域	52.3	57.5	56.2
	生物的領域	58.4	63.4	62.2
	地学的領域	41.1	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	44.5	50.3	48.8
	観察・実験の技能	36.1	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	68.3	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○本校の生徒には、理科を好きだと思っている生徒が57%、また理科の勉強を大切だと思っている生徒が70．6%、実験を行うことが好きな生徒は76．8%と理科に対しての意識は良好である。
●将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと考えている生徒は、23．2%と少数になっている。この原因として、理科の授業で自分の考えを周りの生徒に発表したり、考察を説明したりすることが好きではない生徒が64．2%となっている。このことから、実験は好きだと考えているが、説明することを苦手と考えており、日常の授業の中で思考力・表現力を補う構成をしていく必要がある。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○オームの法則を使って、抵抗の値を求める問題では、56．3%となっており、栃木県・全国の正答率とほぼ同程度になっている。 ●音の高さが、「空気の部分の長さ」に関係している問題では、正答率が25．3%となっており、全国と比較すると4．6ポイント低くなっている。	物理分野の中でも特に、音の領域を苦手としている生徒が多い。日常体験が乏しい状況の中で、なかなか理解することが難しいと思われる。今後の指導としては、実験を通じて、日常体験と結びつけることができるよう、身近なものを使った実験を行い、概念的な理解を高めていきたい。
化学的領域	○炭酸水素ナトリウムを使った実験の結果を分析した問題では、栃木県・全国よりも正答率が1．3ポイント高くなっている。 ●炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱する問題では、栃木県・全国の正答率よりも3．5ポイント低くなっている。	化学変化について学習する範囲では、ベーキングパウダーの主な原材料を紹介している。クエン酸やコーンスターチは簡単に触れる程度になっている。そのため、生徒の中には名称のみは知っているが、どんな物質なのかを知らない生徒も多いと思う。今後は、教科書の内容のみではなく、幅広く紹介する必要がある。
生物的領域	○背骨のある動物の名称を答える問題では、栃木県・全国の正答率よりも7．1ポイント高くなっている。 ●他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な考察を記述する問題では、栃木県・全国の正答率よりも10．1ポイント低くなっている。	理科の学習の範囲では、実験を通して得られた結果から考察をすることを苦手としている生徒が多くいた。これは、概念的な理解が十分でない状況があるため、考察をすることができていないので、今後授業の中で概念的理解を高めることができるよう工夫をしていく必要がある。
地学的領域	○一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画する問題では、栃木県の正答率よりも1．0ポイント高くなっている。 ●露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘する問題では、栃木県・全国の正答率よりも7．1ポイント低くなっている。	日中の中で一番気温が高くなるのはいつなのかということは、生徒の日常生活で感じるものであると思う。しかし、日常でちょっとした疑問も持たず、生活をしてしまう生徒が多くいるように思う。今後は、授業の中で課題を設定し、予想をさせる場面を多く作っていく必要がある。

宇都宮市立鬼怒中学校第３学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

◯「朝食を毎日食べている。」と回答した生徒の肯定割合は（95.7%）全国平均、栃木平均と比べ高い。食育の成果が表れている。今後も栄養教諭を中心に全校体制で指導していきたい。

◯「家で、自分で計画を立てて勉強している。」と回答した生徒の割合は（２２．１%）全国平均、栃木平均と比べて高い。

●平日、休日ともに「家庭学習を1時間より少ない、全くしない。」と回答した生徒が全国平均、栃木平均と比べ高い。生徒の委員会活動での呼びかけ等の工夫や家庭との連携を図り、「家庭学習の日」の推進をしていきたい。

○「地域や社会に起こっている問題や出来事に関心がある。」と回答した生徒の割合は（３０．０%）全国平均を１１ポイント以上上回っている。さらに「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。」と回答した生徒の割合も、栃木県や全国平均を9ポイント以上上回っている。

●「今住んでいる地域の行事に参加している。」と回答した生徒の割合は、栃木県や全国平均をわずか下回っている。地域や社会のことに関心はあるけれど、参加しない傾向があるので全校生徒に対して地域のボランティア活動への参加呼びかけをし、積極的に活動させる努力をしていきたい。